かなとおもひて、事のやうを見はてんと思ひて、追ものけずして、かくれよりのぞき居たり、かくたび〳〵しけれ共、いかにもおちかゝらざりければあやしくて、女をよりてみれば、かたびらのむねに大なる針をさしたりけるが、きら〳〵として見へけり、もしこれにおそるゝかと思て針をぬきて、又もとの所にてみるに、やがてくちなは落かゝりにけり、其ときよりて、打はなちつゝすなはち女おどろきて語りけるは、夢にもあらず、うつゝにもあらで、うつくしきおとこの來て、われをけさうじつるを、なんぢきて追さまたげつるなりとぞいひける、

〔日本靈異記中〕因慳貪成大虵緣第卅八

聖武天皇御世、諸樂京馬庭山寺一僧常住、其僧臨命終時、告弟子言、我死之後、至于三年、室戸莫開、然死後經七々日、在大毒虵、伏其室戸、弟子知因教化、而開室戸見之、錢卅貫隱藏也、取其錢以爲誦經、修善贈福矣、誡知貪錢因隱得大虵身、返護其錢也、

〔法華驗記下〕第百廿九紀伊國牟婁郡惡女

有二沙門一、一人年若、其形端正、一人年老、其詣熊野、至牟婁郡、宿路邊宅、其宅主寡婦、出兩三女從者、宿居二僧、致志勞養、爰家女夜半至若僧邊、覆衣並語、僧言、我家從昔不宿他人、今夜借宿、非無所由、從見始時有交臥之志、仍所令宿也、爲遂其本意所進來也、僧大驚怪、起居語女言、日來精進、出立遙途、參向權現寶前、如何有此惡事哉、更不承引、女大恨怨、通夜抱僧、擾亂戲笑、僧以種々詞語誘、參詣熊野、只兩三日、獻燈明御幣、還向之次可隨君情、作約束了、僅遁此事、參詣熊野、女人念僧還向日時、致種々儲相待、僧不來過行、女待煩僧、出路邊尋見往還人、有從熊野出僧、女問僧曰、著其色衣若老二僧來否、僧云其二僧早還向、既經兩三日、女聞此事、打手大瞋、還家入隔舍、籠居無音、即成五尋大毒虵身、追此僧行、時人見此虵生大怖畏、告二僧言、有希有事、五尋許大虵、過山野走來、二僧聞了、定知此女成虵追我、即早馳去到道成寺、事由啓寺中、欲遁虵害、諸僧集會議計此事、取大鐘一件、僧籠居鐘內、令閉堂門時、大虵